



東京金山会通信

【問合せ】 東京金山会 広報担当 藤山 ☎080-5525-0435

No.86

金山杉を活用した新たな商品開発へ お香づくりワークショップを開催

令和8年3月15日、東京金山会の有志が、NPO法人MOYA主催のお香づくりワークショップに参加しました。本ワークショップは、金山町の特産である金山杉を活用した新たな商品開発の検討の一環として実施されたもので、当日は東京金山会事務所を会場として開催されました。当日は、講師として東京香道のペレス様をお招きし、お香の基礎知識や基本的な作り方についてご指導をいただきました。香りの成り立ちや原料の特徴についても丁寧な説明があり、参加者は理解を深めながら体験に臨みました。

ワークショップでは、お香の材料となるタブ粉と金山の杉の葉材を用いたシンプルな配合で、粉に水分を加えながら手でこね、一つひとつ丁寧にお香を作り上げました。杉特有のやわらかな香りが広がる中、参加者は素材の個性を感じ取りながら、思い思いの形に仕上げていました。会場は終始和やかな雰囲気にも包まれ、参加者同士の交流も生まれるなど、首都圏にいながら金山の魅力に触れる貴重な機会となりました。

今回の取り組みを通じて得られた知見をもとに、今後の商品化や体験コンテンツとしての展開も視野に入れ、地域資源のさらなる活用と魅力発信につなげていきます。



▶お香づくりワークショップには8名が参加しました。

図書室だより



◀新刊本情報はこちら

今月のおすすめの2冊はこちら

あなたの部屋は、あなた自身です。

舛田光洋/サンマーク出版

部屋は、あなた自身をあらわしています。つまり、あなたの部屋はあなた自身です。だから、部屋をきれいにすることで、人生を大逆転すること可能なのです。部屋を整えると思いが整い、人生が動き始めるかもしれません。



つくろうひと

村山早紀/ポプラ社

幼いころに両親と別れた少女の章は、書店を営む祖母に預けられる。同い年のいとこの萌と、ふたりは支えあって暮らしていたが、章は事故で深い傷を負い、病院で眠り続けることに。章の魂は、人魚の手によって悲しい記憶が「つくろわれる」世界にたどり着く。



新刊本 6月

※() 内作者名

◀今月は8冊▶

教場Ω(長岡弘樹) / つくろうひと(村山早紀) / まどろみの星たち(菰野江名) / 君の不在の夜を歩く(窪美澄) / すごいジャーナリング うまくいっている人は紙に何を書いているのか?(菊池大樹・蒼井アオ) / 謎の香りはパン屋から2(土屋うさぎ) / あなたの部屋は、あなた自身です。(舛田光洋) / 鶏が主役! 超たんぱくめし(加藤超也)

「かぶりば」のホームページを公開しました!



◀Instagramはこちら



金山町 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊 かわむら よしえ 川村 佳恵

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の川村佳恵です。これまで町の皆さんに温かく支えられながら、移動本屋「かぶりば」を中心に様々な活動に挑戦させていただき、心から感謝申し上げます。

さて、この度「かぶりば」の公式ホームページを公開いたしました。これまでSNSを中心にお知らせを発信してきましたが、「かぶりば」ってどんな活動をしているの? 「次はどこで営業するの?」といった声をいただくことも増え、より分かりやすく情報を集約できる場所を作りたいと考えました。今後はこちらのホームページに店舗情報を掲載していきます。

また、このサイトには、町民の皆さんや町外在住の金山ファンの皆さんが、金山の魅力をそれぞれの視点で自由に発信できるブログコーナーを設けています。すでに金山校の高校生をはじめ、何人かの方が記事を投稿してくれています。それぞれの感性で綴られる金山の姿はとて新鮮で、読み応え十分ですので、ぜひ一度覗いてみてください。あわせて「かぶりば」フレンズも募集中です。ブログ執筆やイベント・本を通じて活動を一緒に盛り上げてくれる仲間を増やしていきたいと考えています。少しでも興味のある方は、サイト内のお問い合わせや、出店先で私



◀かぶりば公式ホームページトップ画面

ホームページはこちらからご覧いただけます▼



に直接声をかけていただければ幸いです。

ホームページは左のQRコードを読み取るか「かぶりば」と検索することでご覧いただけます。ぜひ定期的にチェックしてみてください。イベントなどで見かけた際は、ぜひお気軽に記事の感想などを聞かせてください。よろしくお祈りします。

ぶんげい

金山杉俳句会 第五二一回

ふくよかに彩なす木々や山笑ふ
ほの甘きさくら餅手に花愛でる
阿部 一代(十日町)

困解く社の山道山伝ひ
「美味ね」と舌で確かむカドの骨
星川 キエ子(山崎)

大ふぐり楚々と咲いてる散歩道
山椒の芽料理に添えてお持て成し
岸 昭子(山崎)

散歩する土手に総立ち土筆んぼ
雨模様社の森に初音さく
高橋 洋子(中田)

夫婦箸春菜の緑こぼしワリ
笑ひ声のこして帰る雛の客
鶴沼 よし子(十日町)

連山の新樹色濃く眼を洗ふ
緩やかにひらかなざる柳風
栗田 弥超(石巻市)

かねやま紅風会

満開のそそろ歩きの花見かな
土の香や心和ます福寿草
咲きはこる出羽のみちのく花吹雪
阿部 勝子(荒屋)

春畑の気持が急ぐ八十路かな
種いもに願ふ心の菜種梅雨
うどの香が父の想い出呼びおこす
関 喜美子(荒屋)

威勢良く魚飛跳夏の川
赤白黄風に首振るチューリップ
梅祭り花よりタンゴの童かな
庄司 けみ子(菅越)

桜咲くバス待人の停留所
昨日とは違ふ今日あり花三分
静寂や真夜中に見るおぼろ月
青柳 キエ子(七日町)

鳥帰る国境無き古里へ
細る身の想い出語る春の午後
花筏絆深める夫婦舟
阿部 一步(上台)